



ふじやまにてコーチャーOBと

# にゅーすれたーふじやま・長泉



2013. 2

## ♪ 春よ来い ♪ ♪ ♪

パナソニックエイジフリー介護チェーン

2月4日は立春、初めて春の気配が感じられる日だそうです。そういえば、どんなに寒くても何となく春の気配が漂ってますよね？和歌山県那智勝浦町の JR 那智駅ではヒカンサクラが8分咲きになり、薄いピンク色の小さな花を咲かせているというニュースがありました。この日以降に初めて吹く南寄りの強風を「春一番」といい、八十八夜の日取りは立春を基準に定めているそうです。幸い花粉症で悩まない私にとり、春は何となく気持ちがあきあきしてきて、桜と共に大好きな季節です。母が亡くなった当座は、桜の咲く頃に倒れたせいもあり、桜は見たくない花で、季節も嫌いでした。あれから30年、私も年齢を重ね、母が亡くなった歳をとうに越えました。いつしか桜花も季節も嫌いではなくなり、桜をながめながら、一句詠みたい心境にまでなりました。今年には桜の絵がみでも描いてみたいと思っています。

5日は波佐見焼一丹心窯の中村さんのお誘いを受け、テーブルウェアショーに行ってきました。波佐見焼は長崎県波佐見町で400年の歴史があります。最初は陶器を焼いていましたが、磁器の原料となる白磁鉱が発見されてからは、青磁や染付などの磁器の生産が盛んになったそうです。丹心窯の創業は1980年に中村さんの祖父(長崎讓)が創業した窯元から独立し、小樽郷の地に窯を開いたとのこと。田園風景の続く、山のふもとに丹心窯はあり、私が初めて訪れたのは2006年の秋。感動しっぱなしだった思い出があります。

丹心窯の「水晶彫」は最近人気が高く、展示場にはリピーターも来ていました。私もそのひとりですが。。。。天草産の上質な白磁の生地に穴をあけ、そこに秘伝ともいえる粘土をつめて焼くことで水晶のような輝きと透明感を生み出します。



水晶彫と中村さん

### いつもお若い山田社長と



その日は早々に会場の東京ドームを出て、東京駅の大丸百貨店に向かいました。大丸10階に昨年9月ステッキのチャップリンが新店舗をオープンしました。「C.チャップリン&愉快的ステッキ展」を1月30日～2月5日まで開催していたからです。招待状にはこんな風には書かれていました。

「この度面白い展示会を開催します。展示品は有名人ゆかりのステッキ(エリザベス女王、チャップリン、吉田茂、長嶋茂雄等々)。物語(ハリーポッターやシャーロックホームズなど)。歴史は古代エジプト時代からの流れと盛りだくさんです。また、喜劇王チャップリンの秘蔵の写真やお宝品も初披露いたします。」

2006年3月30日チャップリンの山田社長から招待を受け、京都の立誠小学校で開催したチャップリンの秘書だった高野虎一さんの遺品展を観たことを思い出しました。日本びいきのチャップリンのことは京都の展示会でかなりお勉強をさせていただきました。(京都はワコール駒谷さんに案内していただきました)

この度の大丸の展示会では護国寺所蔵の「鳩杖」が展示されていました。インターネットで調べると「頭部の握りに鳩の飾りがつけられ、高齢者の長寿を賀するために下賜され、あるいは贈呈された」とありました。展示されていた鳩杖は吉田茂が皇室から与えられたものでそれ以降は途絶えていると聞きました。高齢者が気楽に使えるデザイン性の優れたステッキを提案するとともに、世界中から集めた120点ほどのステッキが展示され、山田社長はこのような展示はもう2度とできないとおっしゃっていました。彼女と初めてお会いしたのは10年前の HCR(国際福祉機器展)の時でした。オシャレなステッキと山田社長に出会えた私は幸福です。大げさに言えば人生観すら変わりました。ステッキを使うことにためらいのある方へのバリアフリーにつなげることが彼女の思いで、日本で杖の文化を伝えられる第一人者です。私も富士市で精いっぱい応援します。久しぶりに趣味と実益を兼ねた充実した一日でした。



渡邊啓視